

# 中国の革命・戦争記念碑に関する基礎的調査

## ——広州地域を中心に——

王 曉 葵

はじめに

1. 広州にある革命・戦争記念碑
  - (1) 広州の革命・戦争記念碑一覧
  - (2) 記念碑の特徴
  - (3) 碑文の検討
2. 広州の革命・戦争記念碑の変貌
  - (1) 新築、増築と改造
  - (2) 破壊、抹消と復元
3. おわりに

### はじめに

20世紀はよく「革命と戦争の世紀」といわれる。中国も例外ではない。特に20世紀の前半は、ほぼ半世紀にわたって対内・対外戦争が続いた。こうした戦争は大量の戦死者を生み出し、それに伴って戦死者の顕彰・記念の問題が発生した。国家・地域社会などが記念碑、慰霊碑、忠魂碑、記念墓苑などの建設によってひとつの「慰霊空間」を作り上げ、ここで行なった祭祀や記念活動などを通して、人々の戦争への認識、記憶を形成していく。ここでは、記念碑などは単なる過去の出来事の記録施設ではなく、政治的・文化的「伝達装置」でもある。これについて、アメリカ史研究家の和田光弘がつぎのように説明した。「記念碑などが、公的記憶の結節点・表出点であると同時に、公的記憶を再生産・変容させる仕組として存在している。そしてそこでは記念日を中心とする記念行事など、さまざまな記念・顕彰行為が執行されているのである。したがって、このような記念・顕彰行為や記念碑そのものの分析を通じて、ある特定の歴史事象に対する人々の意識の変化、記憶の形成過程を広く読み解くことが可能となる」<sup>1)</sup>。

本稿では、以上の認識を踏まえ、中国の広州地域の革命・戦争記念碑の

現状および特徴を紹介することを目的とする。広州とその周辺地域は中国の近現代史上で重要な意味を持つ地域として、アヘン戦争、太平天国の乱、黄花岗蜂起、討伐袁世凱戦争、北伐戦争、省港同盟ストライキ、国共聯合などの歴史事件の中心地であり、抗日戦争、国共内戦の重要な戦場ともなった。そのため、20世紀の始めから、数多くの革命・戦争記念碑が立てられてきた。これらの記念碑は、中国で最初の近代的意義をもつ記念碑として中国の記念碑文化へ決定的な影響を与えた。またこれらの記念碑は一世紀にわたって、政権交代、歴史認識の変化などによる増設・毀損・修復・抹消など、種々の運命を経験している。本稿は文献資料<sup>2)</sup>と現地調査のデータに基づき、広州の革命・戦争記念碑の形式、碑文、揮毫者などを検証し、一世紀にわたる、記念碑をめぐる変容の実態を紹介したい。

## 1. 広州にある革命・戦争記念碑

広州ではアヘン戦争から中華人民共和国が成立するまで、多くの歴史事件に関わる記念碑が立てられた。1911年の辛亥革命から現在までに立てられ、中国近代史上重要な歴史事件、例えば辛亥革命、抗日戦争、国共内戦に関わるものは100以上がある。

### (1) 広州の革命・戦争記念碑一覧

表1は現在までに確認できた広州市内の主な革命・戦争記念碑である。これは文献資料<sup>3)</sup>と一部現地調査で得られた結果を一覧表としたものである。

No. 3「黄花岗公園」、No. 42「広州起義烈士陵园」などは記念墓苑であり、中に複数の墓や記念碑が存在している。従って、実際の記念碑の数は49を遥かに超える。例えば、「黄花岗公園」の中には56基の記念碑があり<sup>4)</sup>、「広州起義烈士陵园」には、6つ以上の記念碑(亭)が存在している。それらについての詳細な調査は今後の課題としたい。

表1の碑を、その名称から墓碑と記念碑の二つに大別することができる。前者は、「○○之墓」、「○○墓」という名称で、後者は「○○記念碑」、「○○記念像」という名であることが一般的である。本文で取り扱う墓碑は、「革命」のために亡くなった人々の墓碑であり、一定の「公共性」を持つものと考えられる。この点において、個人の墓碑と区別している。

中国の革命・戦争記念碑に関する基礎的調査

表1 広州の主な革命・戦争記念碑一覧表

| No. | 名 称                    | 設立年代          | 揮毫者        | 場 所           | 高さ(m) |
|-----|------------------------|---------------|------------|---------------|-------|
| 1   | 史堅如先生祠                 | 1913          | 胡漢民        | 黄花崗公園内        |       |
| 2   | 紅花崗四烈士之碑               | 1918          | 林森         | 中山二路広州起義烈士陵園内 | 8     |
| 3   | 黄花崗公園                  | 1921～<br>1935 | 孫文         | 先烈中路79号       |       |
| 4   | 朱執信先生墓                 | 1921          | 孫文、<br>汪兆銘 | 先烈東路127号      |       |
| 5   | 馮如墓                    | 1921          | 不明         | 黄花崗公園内        | 4     |
| 6   | 興中会墓地                  | 1923～         |            | 先烈南路青龍坊       |       |
| 7   | 鄧蔭南墓                   | 1924          | 胡漢民        | 先烈南路25号       | 9     |
| 8   | 伍廷芳・伍朝枢墓               | 1924～<br>1934 | 孫文         | 越秀山           | 6.77  |
| 9   | 華僑五烈士墓                 | 1924          | 孫文、<br>胡漢民 | 先烈中路          | 4     |
| 10  | 鄧仲元先生之墓                | 1924          | 孫文         | 黄花崗公園内        | 15    |
| 11  | 楊仙逸先生墓                 | 1924          | 孫文         |               | 2.8   |
| 12  | 潘達微先生之墓                | 1950          | 不明         |               |       |
| 13  | 為農民利益而犠牲者王福三烈士之墓       | 1925          | 不明         | 花県花山鎮埔浦崗郷紗帽嶺村 | 1.3   |
| 14  | 沙基惨案烈士墓                | 1925          | 不明         | 銀河革命公墓        | 2.02  |
| 15  | 東征陣亡烈士墓                | 1926～<br>1937 | 蒋介石        |               | 10    |
| 16  | 張民達墓                   | 1926          | 譚延闓        | 先烈中路動物園の側     |       |
| 17  | 工農運動死難烈士記念碑            | 1926          | 不明         | 越秀山南路89号      | 4.27  |
| 18  | 廖仲愷先生犠牲処記念碑            | 1926?         | 叶劍英        |               | 4.7   |
| 19  | 光復記念亭                  | 1929          | 胡漢民        | 越秀山鎮海樓東小龍蟠崗   | 7     |
| 20  | 国民革命軍軍官学校学生出身北伐陣亡將士記念碑 | 1929          | 何遂等        | 黄埔長州島仑頭山      | 7.49  |
| 21  | 孫総理記念碑                 | 1930          | 不明         | 黄埔軍校中山公園八卦山   | 43    |
| 22  | 孫中山先生記念碑               | 1930          | 不明         | 越秀山頂上         | 37    |
| 23  | 孫先生読書治事処記念碑            | 1930          | 不明         | 越秀山南坂         | 5.5   |
| 24  | 古応芬先生之墓                | 1931          | 胡漢民        | 天河区銀屏嶺広州林業学校内 | 3.6   |
| 25  | 中山記念堂                  | 1931          |            | 越秀山南          |       |
| 26  | 中山記念碑                  | 1931          | 不明         | 越秀公園          |       |
| 27  | 海員亭                    | 1933          | 不明         | 越秀山鎮海樓東小龍蟠崗   | 5     |

|    |                       |           |     |                 |      |
|----|-----------------------|-----------|-----|-----------------|------|
| 28 | 十九路軍淞滬抗日陣亡將士墳園        | 1932      | 林森  | 水蔭路113号         |      |
| 29 | 孫逸仙博士開始学医及革命運動策源地記念碑  | 1935      | 不明  | 越秀区沿江西路107号     |      |
| 30 | 陳復烈士之墓                | 1935      | 聶榮臻 | 海珠区江南大道中劉王殿崗    | 1.66 |
| 31 | 胡漢民先生之墓               | 1936      | 不明  | 天河区銀屏嶺広州林業学校内   | 3    |
| 32 | 劉義亭                   | 1937      | 邹魯  |                 |      |
| 33 | 粵軍第一師諸先烈記念碑           | 1939?     | 不明  | 北郊沙河燕塘広汕公路隣牛眠崗  | 38   |
| 34 | 從化陸軍第六十二軍一五七師抗日陣亡將士公墓 | 1942      | 黄涛  | 從化良口牛背脊         | 12.3 |
| 35 | 從化陸軍第六十三軍抗日陣亡將士公墓     | 1943      | 余漢謀 | 從化良口鎮石榴山        | 9.65 |
| 36 | 陸軍新編第一軍印緬陣亡軍人公墓       | 1945~1947 | 蒋介石 | 広州沙河広園東路        |      |
| 37 | 血淚洒黄花碑                | 1946      | 不明  | 黄華路中約外街         | 1.71 |
| 38 | 三元里抗英烈士記念碑            | 1950      | 不明  | 広花一路35号         | 10   |
| 39 | 中国文化総同盟広州分盟六烈士墓       | 1955?     | 不明  | 銀河革命公墓内         | 2.5  |
| 40 | 沙基惨案記念碑               | 1950      | 不明  | 六二三路            | 6    |
| 41 | 番禺植地莊抗日戦争烈士記念碑        | 1956      | 鄭少康 | 番禺南村鎮里仁洞植地莊外撻沙崗 | 11   |
| 42 | 広州起義烈士陵園              | 1957      | 鄧小平 | 中山中路92号         | 45   |
| 43 | 林偉民同志之墓               | 1927?     | 不明  | 銀河革命公墓内         | 2.5  |
| 44 | 林宝宸烈士之墓               | 1957      | 不明  |                 | 1.86 |
| 45 | 越南範鴻泰烈士之墓             | 1958      | 不明  | 太和崗             | 2.6  |
| 46 | 広州解放記念像               | 1959      | 叶劍英 | 海珠広場中心          | 15.1 |
| 47 | 洗星海墓                  | 1985      | 不明  | 白雲山麓麓湖          | 3    |
| 48 | 広東陸軍庚戌首義諸烈士墓          | 不明        | 不明  | 先烈路 牛王廟         |      |
| 49 | 銀河革命公墓                | 1955      |     | 燕嶺路394号         |      |

事件が重要視され、記念碑が建てられる一方、死者が「大衆」であった場合、墓碑と事件の記念碑がそれぞれ別々に建てられるケースもある。No. 40「沙基惨案記念碑」とNo. 14「沙基惨案烈士之墓」がこれに該当する。記念碑は事件の発生地である六二三路に建てられた。墓は最初大宝崗に建てられたが、後に銀河革命公墓に移された。

表1に載せた碑以外に、記念碑とは性質を異にする記念施設がある。

「祠」、「亭」、「像」とよばれる施設がそれである。「祠」は祠堂であり、死者の祭祀を目的として建てられるものである。No. 1の「史堅如祠」は1913年に広州先烈路青菜崗に作られ、1978年都市建設のため、黄花崗公園に移転された<sup>5)</sup>。当時「祠」が作られたかどうか不明であるが、現在では銅像しか存在していない。

「亭」は、図1のように中国の伝統的建築様式により建てられている。亭そのものが記念となるものもあれば、碑の上に亭を立てる形式のものもある。前者は、柱や横額に亭の名前や撰文などが刻まれている。よく山林や庭園のなかに建てられ、自然風景の一部となり、人々の休憩所としても利用される。後者の役目は主に碑を守ることである。

「像」というのは、人物の彫刻が記念碑の主体となっているものである。No. 46の「広州解放記念像」がそれである。

表1で挙げた革命記念碑を設立者から分類すれば、国民党系のものと共産党系のものと2種類に分けることができる。

国民党系の記念碑は、民国革命と抗日戦争を中心に20世紀初めから1949年までに建てられたものである。それは、さらに以下の4種に分類できる。1. 孫文記念碑、2. 黄花崗七十二烈士之墓とその周辺の記念碑、3. 抗日戦争記念碑、4. その他である。

第1の孫文記念碑は、孫文の広州での活動に関する記念碑である。その代表的なものは、No. 21「孫総理記念碑」、No. 22「孫中山先生記念碑」、

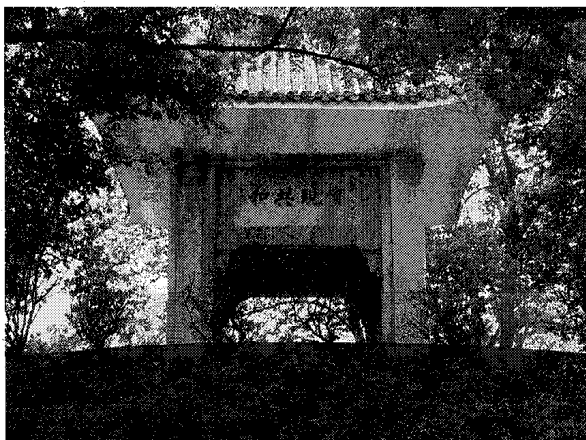


図1 光復記念亭 (No. 19)

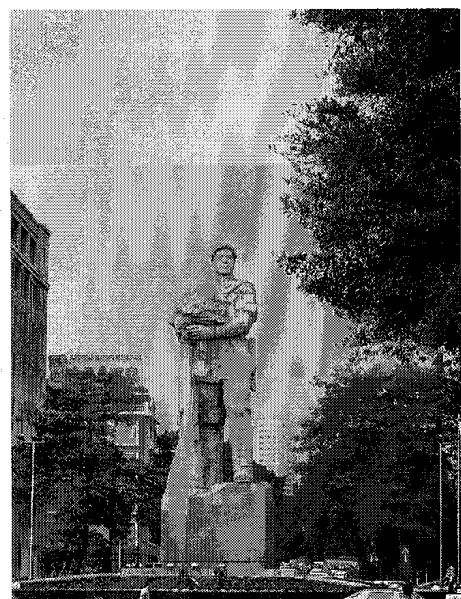


図2 広州解放記念像 (No. 46)

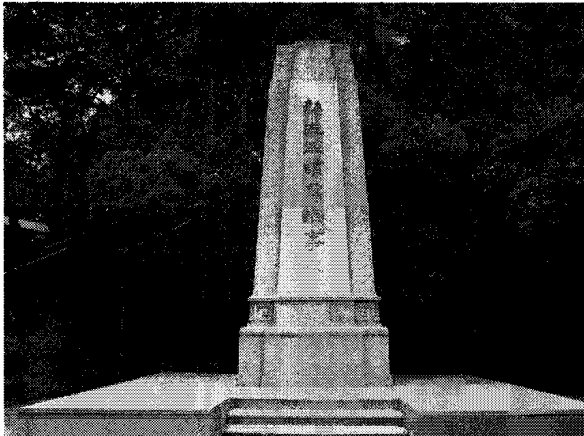


図3 孫先生読書治事処記念碑 (No. 23)

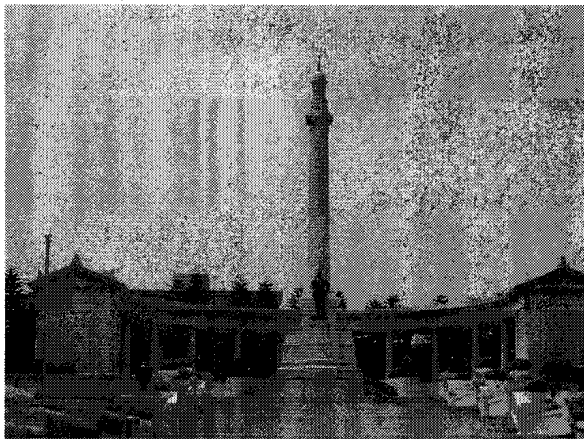


図4 十九路軍淞滬抗日陣亡  
将士記念碑 (No. 28)

No. 23「孫先生読書治事処記念碑」、No. 29「孫逸仙博士開始学医及革命運動策源地記念碑」などである。

これらの記念碑を立てた者は国民党中央およびその関係団体である。時期は1926年から1935年までで、その間の大半は、国民党の政治支配が比較的安定している時期であったため、碑体の設計、製作、周辺関連施設の整備などがきちんとなされている。またほかの国民党系の記念碑と違って、孫文記念碑は、抗日戦争中、中華人民共和国時代までも毀損、改築などが殆どされていない。

その一つ、黄埔軍校中山公園にある「孫総理記念碑」には、孫文の日本の友人梅屋庄吉が贈った孫文の銅像がある。像は高さ2.6メートル、重さ1トンで、台座に「牧

田祥哉作」と「祥哉」の印が、正面には「篠原金作工場謹造」とそれぞれ刻まれている<sup>6)</sup>。

第2の「黄花崗公園」とその周辺の記念碑群は、辛亥革命前十数回の武装蜂起及び中華民国成立後の軍閥との戦争中において、国民党とその前身の興中会、中国同盟会の戦死者、暗殺された者、処刑された者のために建てられたものである。黄花崗公園の中やその周辺には、烈士の記念碑が多く存在しているため、その道は「先烈路」と名づけられている。ここには朱執信先生墓、史堅如先生祠、紅花崗四烈士之碑、鄧仲元先生之墓、馮如墓、楊仙逸先生墓、鄧蔭南墓、興中会墓地、張民達墓などがある。これらの記念碑は、後述のように、中国における最初の近代的意義を持つ記念碑であるため、建築様式、碑文の書式などは豊富多彩の様相を呈している。

第3の抗日戦争関係の記念碑は、No. 28「十九路軍淞滬抗日陣亡将士陵

園」とNo. 36「陸軍新編第一軍印緬陣亡将士公墓」に代表される。前者は上海事件で戦死した軍人の墓苑で、後者は抗日戦争中インドシナへ派遣され、アメリカ・イギリス軍と共同作戦した国民党軍陸軍新編第一軍陣没軍人公墓である。これらの墓の多くは戦没者が所属していた軍隊によって立てられ、規模は比較的大きく、記念碑と墓地が一体となり、記念亭や記念館などの施設もある。

第4に挙げた「その他」には以下のようなものがある。中華民国の要人について、埋葬された場所とは別に、暗殺された場所に記念碑を建てることもある。例えば、古応芬先生之墓、胡漢民先生之墓、廖仲愷先生犠牲処記念碑などがこれに該当する。また、各種民間団体、地域社会、個人によって建てられた記念碑もある。No. 13「為農民利益而犠牲者王福三烈士之墓」、No. 19「光復記念亭」、No. 27「海員亭」、No. 37「血涙洒黄華碑」、No. 30「陳復烈士之墓」などがこれに当たる。これらの記念碑は比較的小規模で、デザインは素朴、形は伝統的な長方形である。

共産党系の記念碑は1949年以後に建てられたものが殆どで、1949年までの戦争、武装蜂起などで死亡した共産党員やその関係者にまつわるものである。場所は広州起義烈士陵园と銀河革命公墓に集中している。その他、直接共産党とは直接関係ないが、共産党の人民闘争歴史観を反映する「人民大衆」が反帝国主義中の人民の死者を記念するものもある。その代表はNo. 38「三元里抗英烈士記念碑」である。

No. 42「広州起義烈士陵园」は、中華人民共和国建国5年後の1954年に、広州蜂起を記念するために建設が始まった烈士墓苑で、3年後の1957年に完成した。碑文は周恩来、朱徳などが揮毫している。さらに、1987年に大きな記念碑が増築され、その碑の揮毫者は当時の最高権力者鄧小平であった。

もう一カ所は銀河革命公墓である。これは中華人民共和国建国後に建設され、今は記念墓苑と公営墓地となっている。記念墓苑には「革命烈士」とされた共産党の幹部や一定の地位がある者の墓が安置されている。そこには、戦争中に死亡した者と1949年後「社会主義を建設」するため死亡した労働者の記念碑もある。その代表的なものは国の工場を守るため、火事で亡くなった向秀麗の記念碑である。一部の墓は、本来広州市に散在していたが、都市建設のためにここへ移築された。その中で、中華民国期に建てられたが、その墓が農民、労働者の指導者や共産党の同盟者のもので

あるため、ここに移転されたものもある。No. 43「林偉民同志之墓」、No. 44「林宝宸烈士之墓」はその例である。

## (2) 記念碑の特徴

広州の革命記念碑は、中国近代における最初の記念碑建築である。西洋建築様式と中国の古典建築様式との融合が最大の特徴であるといえる。これはその後の記念碑に大きな影響を与えた。この時期の西洋建築様式の導入は、原物を模倣した痕跡がはっきりと見て取れる。黄花崗の自由の女神像は、ニューヨークにある自由の女神より小さいが、造型はほぼ同じである。1927年に建てられた東征陣亡烈士墓は、パリの凱旋門をモデルにしている。また、広州十九路軍淞滬抗日陣没軍人陵園はバロック式の建築様式である。

その一方で、中国伝統の建築様式も色濃く残っている。黄花崗では、自由の女神の側に、中国式の龍柱、



図5 黄花崗公園の自由の女神像 (No. 3)

香炉、牌坊などが建てられている。

しかし、最も多いものは、中国伝統様式のものである。ドーム型の墓前に墓碑を建て、碑の正面に「○○之墓」と、側面や裏に撰文を刻む形式である。

共産党系の記念碑は西洋建築様式を取り入れるが、自由の女神のような「資本主義」、「帝国主義」、「西側」を連想させるものは意識的に避けている。また、古代中国の碑の手法を取り入れることがあっても、装飾が少なく、全体的に極めて素朴に作られている。記念碑に事件の様子を描くレリーフを刻むことも共産党系記念碑の特徴であるといえる。

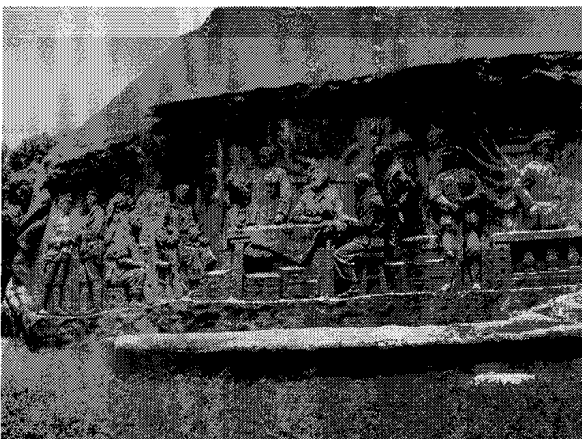


図6 広州起義烈士記念碑のレリーフ (No. 42)

記念碑の形は、以下のようにいくつか分類できる。



I. 一定の政治理念を連想させる造型。自由の女神、銃を挙げる造型（図7）

II. 死者の像が碑の上に立つもの（図8）

これは伝統的な中国式の碑には殆ど見られない形で、西洋の影響を受けたものと考えられる。

III. 死者の職業や身分と連想させる造型。例えば飛行機の模型、爆弾の造型など

IV. 伝統的なもの（図9）

もっとも多いのは、中国伝統様式のドーム型墓と長方形の石碑との組み合わせである。碑のサイズ、形はそれぞれ微妙に違っている。

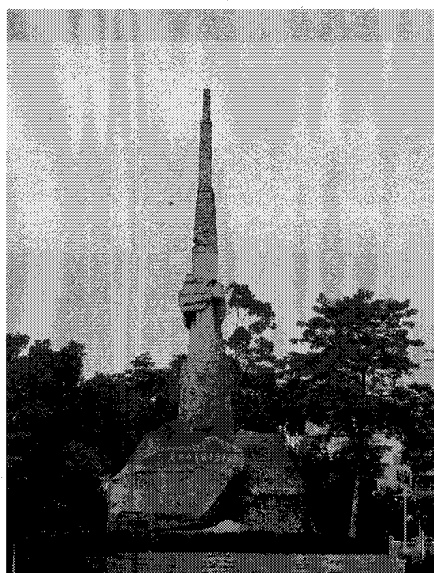


図7 広州起義烈士記念碑 (No. 42)

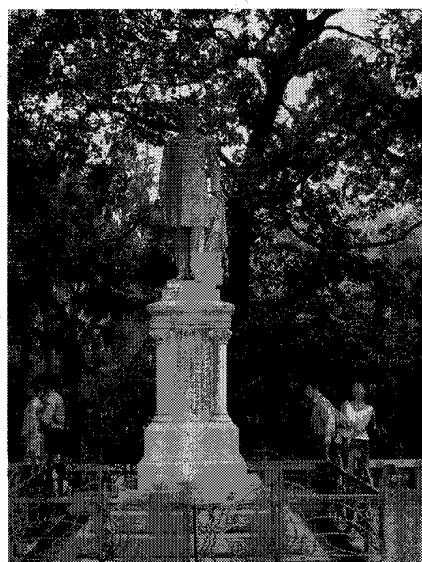


図8 史堅如像 (No. 1)

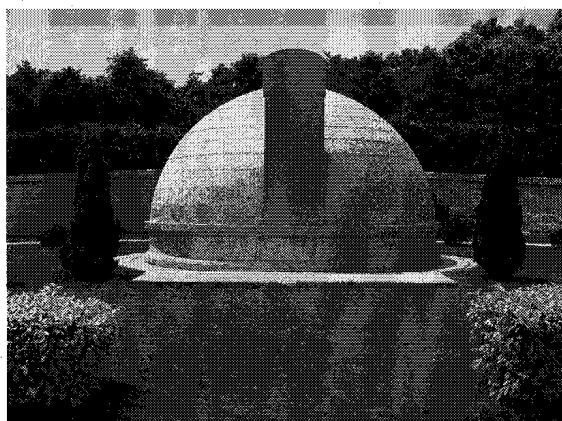


図9 淞滬抗日暨歴役革命陣亡将士公墓碑 (No. 28)

記念碑を立てる場所は、死者の最初の埋葬地および事件の発生地を選ぶ場合が多い。例えば、「黄花崗公園」、「広州起義烈士陵园」の黄花崗と紅花崗は死者が最初に埋葬された土地である。また事件（例えば暗殺、デモなど）の発生地に記念碑を建て、死者は他の場所に埋葬されることもある。例えば、No. 18「廖仲愷先生犠牲処記念碑」は、暗殺された元国民党広東党部の前に立てられた。廖仲愷の墓は別の場所に作られた。そのほか、「広州解放記念像」のように、街の景観の一部として、交通の要所に建てられた記念碑もある。また後述のように、記念碑が建てられた後、さまざまな理由により、元の場所から移築されたものも多い。

記念碑以外に、事件の発生地で資料館や記念館を設けることもある。黄花崗蜂起と広州蜂起はそれぞれ蜂起司令部のあった場所に資料館や記念館が作られた。

碑文の揮毫者は死者や事件の関係者、著名人及びその両方を兼ねる者が殆どである。辛亥革命関係の記念碑の揮毫者は孫文、林森、胡漢民、汪兆銘が多く、抗日戦争の記念碑は、死者の上司や当時中国軍の最高司令官蒋介石などが多い。共産党系の記念碑は鄧小平、周恩来、朱徳などの指導者が多い。後述のように、揮毫者の政治的評価によって記念碑が保全されたり、あるいは逆に毀損されたりすることもある。

### (3) 碑文の検討

記念碑には碑表をもつもの、もたないもの、死者の名前を刻むもの、そうでないもの、などの多様性がある。国民党系の記念碑の多くは碑表があり、死者の事跡、事件の経緯などを詳細に紹介するものが特徴である。揮毫者は碑文、碑表、碑記などで異なった人が書くことが普通である。内容についてはさまざまである。ここで全てを取り上げて、総括する余裕がないが、いくつかの特徴を紹介する。

文体については、国民党系の漢文調中心に対して、共産党系の碑文は主に現代中国語の「白話文」で書かれた。そして、国民党系の記念碑の碑文は死者の功績に対して、中国の伝統的徳目「義」「大義」「成仁」「忠義」「捐軀」「殉国」などの言葉で表現することが多い。共産党時代の記念碑は死者が「人民の利益」「国家の独立」「民族の解放」のために命を捧げたという表現を使っている。

また、国民党時代に立てられた記念碑には、特定の階級のため献身する

ことを明記するものがある。例えば、No. 13「為農民利益而犠牲者王福三烈士之墓」、No. 44「林宝宸烈士之墓」などには、はっきりと「農民利益のため」という表現がある。共産党時代の記念碑では概して「人民のため」という表現がとられている。

碑文の内容については、直接にそこで起こった事件の性質や碑の設立に至る経緯などを紹介することは一般的であるが、碑文を書く人の政治理念や時局の見方を表わすこともある。例えば、No. 28「十九路軍淞滬抗日陣亡將士墳園」の中にある「国民革命軍第十九路軍公墓記念碑」の碑文は、第十九路軍の上海事件での戦いぶりを絶賛した後、「然一・二八之役，功敗垂成，政府求和苟安，未期年而寇氛益甚。榆関、熱河相繼陷失、守土者数倍十九路軍之兵力，乃不戦而潰，諸將士死而有知，其目不能瞑也。嗚呼！」<sup>7)</sup>と当時蒋介石が主導した国民政府の対日講和政策を批判している。

内容について最も重要なのは、事件や死に対する「意義付け」である。つまり、事件や死への評価及び顕彰の意味の説明である。これについては、死者の功績に対する評価がその「精神」を強調する、つまり、烈士の死が「三民主義」、「共産主義」、「救国」、「革命」、「反帝国主義」などの政治理念と結びつけられ、彼らの死が政党の理念を実行すると同時に国、中華民族のためであったことを強調する傾向がある。この傾向は国民党、共産党を問わず明らかである。

例えば、No. 3 黄花崗公園の中にある「七十二烈士碑記」には、次のような文句がある。

黄花崗七十二烈士之碑，蓋埋骨者固七十二人，今日雖有所闕，固望他日能補而足之也。夫馬革裹屍黨人之志，埋骨已非所期，遑論留名。今之為此徒以為後人留連憑吊之資，於死事者固無與也，嗚呼！此役所喪失者不特吾黨之精銳而已，蓋合國中之俊良以為一炬。其物質之犠牲不可為不大，然精神所激發使天下皆了然於黨人之志節操行與革命之不可以已。故不踰年而中華民國遂以告成。則其關係寧不重歟。然念國難之無窮，賢才之易盡，執筆作記又不勝後死之感也。<sup>8)</sup>

このように、国民党は、「党人」の「犠牲」が中華民國の設立に果たした役割を強調する。

共産党においては、No. 42「広州起義烈士陵園」の中にある「広州起義

烈士記念碑」では次のように共産党の偉大さを表現している。「広州蜂起は人民政権を創立する偉大な試みであり、南昌蜂起、秋収蜂起と並んで、中国共産党が独自に人民軍隊を設立し、敵と戦う偉大な始まりである」<sup>9)</sup>。「人民政権」は共産党員の血によるものとしている。

## 2. 広州の革命・戦争記念碑の変貌

革命記念碑の建設の目的は、「革命の歴史」を記録し、人々に記憶させることである。それを通して、「革命政党」、「革命者」の政治的支配を正当化する。記念碑で現れた道徳的規範、政治的イデオロギー性は政治的権威の樹立と繋がっている。従って、政治的変動は政治の変動や都市建設などの原因で新築、増築、毀損、改造、修復などが行なわれた。ケネス・E・フットがいうように、「聖別された場所も、神聖さを失い、色褪せて、最終的には消し去られるかもしれない。また逆に、抹消された場所が、神聖さを獲得して祀られるようになるかもしれない」<sup>10)</sup>。

広州の革命記念碑がこの1世紀の間、どのように変化したか、またその変化の裏になにが隠されているのかを知ることが、重要な課題といえよう。しかし、それを全て把握するには資料上の制約があり極めて困難である。ここでは、一部調査の結果を表2に挙げる。

### (1) 新築・増築と改造

事件が発生した当時あるいは直後には記念碑が作られなかったが、その後、何らかの理由で、事件が読みかえられ、記念碑が作られたケースもある。No. 38「三元里抗英烈士記念碑」の設立はその一例である。三元里は、広州市郊外にある村で、アヘン戦争中の1841年に、イギリス軍はここで地元の民衆の襲撃を受け、数十人の死傷者を出した。この戦果は、当時の清政府軍のそれと比べると、大きな勝利とも言えよう<sup>11)</sup>。そのため一部の官僚や知識人が高く評価した。しかし、その戦果が拡大できず、アヘン戦争の行方に影響を与えずに終わった。後に、地方知識人の要望で戦死者のための「義勇祠」を作ったが、1857年に壊された<sup>12)</sup>。記念碑やほかの記念施設は作られなかった。その後の民国時代から1949年までに、三元里は殆ど注目されていなかったし、早期の共産党でさえ、この事件についての評価は一部の農民が故郷を守るためにとった自発的な行動と見なしてい

中国の革命・戦争記念碑に関する基礎的調査

表2 広州の主な革命・戦争記念碑の変貌一覧表

|    | 名 称                    | 設立年代          | 関 連 事 項  |
|----|------------------------|---------------|--|
| 1  | 史堅如先生祠                 | 1913          | 1978年に先烈路青菜崗から現地に移転                                      |
| 2  | 紅花崗四烈士之碑               | 1918          | 修復あり   |
| 3  | 黄花崗七十二烈士墓              | 1921～<br>1935 | 増築、破壊、修復、移転  |
| 4  | 馮如墓                    | 1921          | 1981年に移転   |
| 5  | 伍廷芳・伍朝枢墓               | 1924～<br>1934 | 伍廷芳の銅像は1950年代破壊された。1985年にコンクリートで複製、1988年に先烈東路から現地に移転された。 |
| 6  | 楊仙逸先生墓                 | 1924          | 1981年に現地に移転  |
| 7  | 為農民利益而犠牲者王福三烈士之墓       | 1925          | 1928年に花県民団に破壊され、1949年後修復                                 |
| 8  | 沙基惨案烈士之墓               | 1925          | 1957年に大宝崗から現地に移転   |
| 9  | 東征陣没烈士墓                | 1926～<br>1937 | 一部破壊、修復  |
| 10 | 胡漢民先生之墓                | 1935          | 破壊、1985年修復   |
| 11 | 廖仲愷先生犠牲処記念碑            | 1926          | 1966年に壊され、1982年に新築                                       |
| 12 | 光復記念亭                  | 1929          | 1938年に破壊され、1948年に新築                                      |
| 13 | 国民革命軍軍官学校学生出身北伐陣没将校記念碑 | 1929          | 文革中碑文がコンクリートで塗られた。1984年に修復された。1988年増築あり                  |
| 14 | 古応芬先生之墓                | 1931          | 文革中破壊され、1986年修復  |
| 15 | 十九路軍淞滬抗日陣没軍人陵園         | 1933          | 文革中碑文の部分が破壊され、修復あり                                       |
| 16 | 陳復烈士之墓                 | 1935          | 移転   |
| 17 | 広東陸軍庚戌首義諸烈士墓           | 不明            | 文革中破壊され、1981年修復  |
| 18 | 陸軍新編第一軍印緬陣亡軍人公墓        | 1945～<br>1947 | 1949年後、完全に破壊され、僅かの遺跡が残されている。                             |
| 19 | 林偉民同志之墓                | 1927          | 1949年後に先烈路二望崗から現地に移転                                     |
| 20 | 林宝宸烈士之墓                | 1925          | 1957年移転  |
| 21 | 広州解放記念像                | 1959          | 1969年に毛沢東像を作るため壊され、1979年に修復                              |

る<sup>13)</sup>。しかし、中華人民共和国成立翌年の1950年に、広州市政府が三元里村の出入り口に烈士の記念碑を建て、碑に次のような碑文を刻んでいる。「1841年に三元里で英帝国主義侵略者との闘争中に命を捧げた烈士達は永遠に不滅」。その後、広東省と広州市文史館によって関連資料の収集、当

事者および彼らの子孫に聞き取り調査が行なわれ、この調査の結果に基づき展示室が作られた。また、1958年に当時民衆が集合し宣誓大会を行なった場所である「三元古廟」を改修し、「三元里人民抗英闘争記念館」を作った。しかも、この記念館は1961年に中国国家重点文化財第1号と認定された。1961年、1971年、1989～1990年に数回わたって改修工事、展示内容の充実などを行ない、三元里の戦闘を「近代史上中国人民が自発的に外国侵略者に反抗した第1頁」<sup>14)</sup>と位置づけた。この事件の経緯について、現行の解説資料は次のように記述している。

1841年5月29日、英軍は三元里一帯まで略奪して、野菜農家の韋紹光の妻を侮辱した。韋紹光と村民が英軍兵士の8、9名を打ち殺した。その後、三元里近くの103郷が人民義勇隊を組織し、5月30日の朝、1万人を超える義勇兵が牛欄崗で2千人の英軍と激戦を繰り広げた。結局英軍が40人余りの死傷者を出し敗退した。<sup>15)</sup>

しかし、近年の研究により、戦闘の経過や死傷者の人数などが当時からかなり誇張されていたことがわかった。1954年の調査自体は当時の共産党の政治理念に主導されたもので、農民を中心とする民衆の役割を強調するため、自分の故郷を守る小さな戦闘を愛国主義の高度にまで引き上げたのである<sup>16)</sup>。

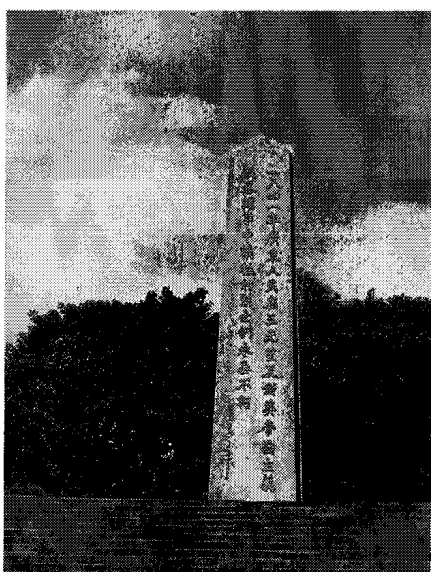


図10 三元里抗英烈士記念碑  
(No. 38)

この記念館は愛国主義の象徴として、アヘン戦争でイギリスに「割譲」された香港が中国に返還される1ヵ月前の1997年5月30日に、「全国一百家中小学校愛国主義教育基地」と指定された<sup>17)</sup>。

増築とは、事件の直後に政局が不安定であったり、資金不足、事件や人物に対する評価が流動的などの理由から、すでに建設した墓や記念物を、状況の変化によって規模を大きくしたり、新たな記念物を追加して作ったりすることである。黄花崗はその一例である。1911年に作った墓を1918年から1921年まで、1931年から1935年まで

数回増築した（改築も含む）。広州起義烈士陵园にも、1964年、1987年にそれぞれ、中朝人民血誼亭、広州起義記念碑を増築した。

改築は記念碑の一部を改造することである。黄花崗の例でいえば、1930年後、記功坊の自由の女神像を国民党の徽章に換え、1949年後に国民党の徽章がまた取り除かれ、自由の女神がもとの場所に戻った。ただこの時神像の手に握っている槌はすでに行方不明で、1本の銃に取り替えられた<sup>18)</sup>。

文革中、自由の女神像は紅衛兵にひっくり返され、打ち砕かれて、台座の上には、1本およそ1メートルのトーチが立てられた。その後、このトーチが全体の建物の風格と合わないといわれ、それを移して、記功坊の上は空白状態になった。1980年代にまた自由の女神にもどった<sup>19)</sup>。

## (2) 破壊、抹消と復元

表2に見られるように、広州の革命記念碑の多くは、程度の差があるがこの数十年に破壊、抹消あるいは改造された。

革命記念碑の破壊、抹消、改造は、関連人物や事件の「革命性」が新たな価値判断で失われてしまうことによるものが多い。孫文の弟子である汪兆銘、林森、胡漢民、鄒魯などの名前が黄花崗の記念碑上から抹消されたのは、そのためである。彼らは、辛亥革命時代から、「革命者」として名高く、政治的にも高い地位を得ていた。しかし、これらの人々への評価は彼らの政治活動に沿って変わっていった。汪兆銘は、後に蒋介石と政争を繰り広げ、抗日戦争の時には、日本との協調政策を取ったため「漢奸」といわれた。林森、鄒魯などは孫文の死後、北京の西山で「西山会議派」を結成し、共産党を国民党から追い出すことを唱えたため、共産党の歴史教科書において、国民党内部の反共産党分子と記述された。しかし、1966年までは、共産党政権はこうした人々が関係する遺蹟を計画的に破壊、抹消することはしなかった。

その理由は、当時の歴史解釈は、民国革命を「旧民主主義革命」と位置づけ、関連する人々の「革命性」を肯定しているからである。しかし、文化大革命は中国の歴史を極めて単純化した。つまり、毛沢東の路線を擁護するかどうか近代史上の人物を判断する基準となった。紅衛兵たちは、革命の「徹底性」を求め、こうした人物たちを「反革命的」と見なし、関連する記念物を破壊や抹消した。こうした行為は1980年代に是正され、

破壊され抹消された記念碑を復元、修復した。これは歴史に対する認識が変わったこと以外に、もう1つの背景として、台湾との関係への配慮がある。つまり、民国の記念物を修復することによって、台湾の「中華民国政府」と「革命歴史」を共有し、共同の未来として「祖国の統一」を追求する狙いがある。

記念碑の破壊や改造は、黄花崗蜂起の烈士を記念する「党魂不死」碑のように全体的に毀損し、景観からまったく姿を消してしまうものもあれば、黄花崗公園の一部の碑文が削られたり、塗られたりするものもある。図11は記功坊の石の「国民党」の文字や、石碑の汪兆銘、林森、鄒魯、胡漢民などの名前が削られた例である。

毀損され、全く修復されていないものもある。「党魂不死」碑は、文献の中に写真が残されているものの、現物はすでに消えてしまった。抗日戦争でなくなった国民党軍の墓苑 No. 36「陸軍新編第一軍印緬陣亡将士公墓」は、完成して間もないころの文献資料によると、完成当初の規模はかなり大きなものであった。新一軍記念は主に記念塔、記功亭、墓誌銘、牌坊などの4個の部分から構成されている。もとは記念碑の頂には1羽500キロを超える、翼を広げた雄鷹の像があつて、これは新一軍が使った砲弾の殻で（タカが新一軍の軍隊の記章）铸造したものであった。壁面には新一軍の戦没将兵の名前が刻まれていた。

しかし現在は、雄鷹と戦没将兵の名前はなくなり、全体の記念塔もある

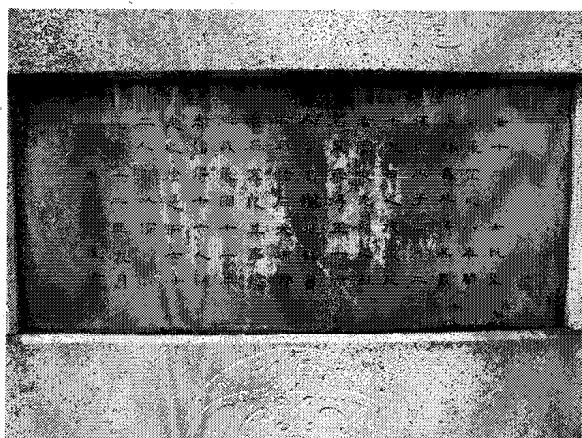


図11 名前を削られまた復元された黄花崗公園内の記念碑 (No. 3)

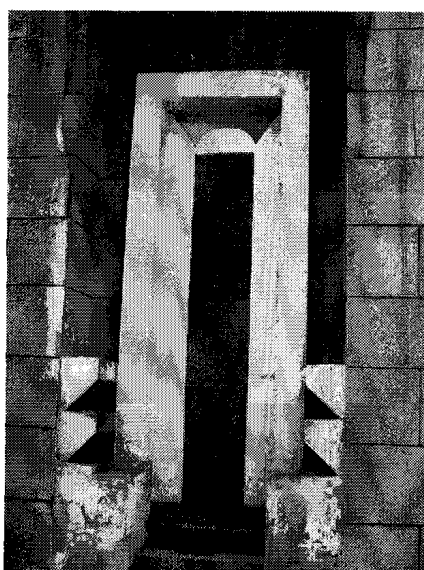


図12 陸軍新編第一軍印緬陣亡将士公墓の遺跡 (No. 36)



政府機関の寮に覆い隠されて、外からは記念塔が見えなくなってしまっている。記功亭の周囲のスペースは現在約3000m<sup>2</sup>の自由市場となったため、肉や野菜の売り場に囲まれており、元の部隊の兵舎は今では賃貸住宅になっている。墓誌銘の文字はすでにぼんやりとかすんでしまい、墓碑の両側も扉や壁として用いられている。

新一軍の墓が破壊され、そのまま修復されることなく放置された理由として、抗日戦争後の内戦中、新一軍が共産党と戦ったということを挙げられるが、その一方で共産党の最大の敵である蒋介石の祖墓が中華人民共和国政府によって保護されていたということから見れば、政治的な利用価値があるかどうかというのが、記念碑の運命を左右する重要なポイントであるといえよう。しかし、近年国民党と共産党との関係が緩和し、もっと客観的に歴史をみようとする動きがあり、新一軍の墓園を修復・保護する声も聞こえる<sup>20)</sup>。

### 3. おわりに

広州の革命・戦争記念碑は、その形態、デザイン、碑文の文体などの点から、豊富な文化的・政治的なメッセージを読み取ることができる。西洋の自由・民主、共産主義などの政治理念、「義」、「仁」などの中国の伝統的な倫理価値などが、記念碑を通して死を意味付けているのである。死の意義は時代、政治権力によってさまざまであるが、「義」、「仁」、「人民」のために生命を捧げたということが定型化されているのは、国民党、共産党を問わず、共通の特徴である。また、キリスト教文化の国々のように、戦争記念碑に象徴されるのは、特定の宗派を超える抽象化された神観念、いわゆる「国家の神」<sup>21)</sup>ではない。中国においては革命・戦争記念碑に象徴されているのは、「革命」という政治理念を前提とする価値である。しかし、「革命」自体はさまざまな理解が可能であるから、記念碑は「永久」のものとはならず、絶えざる価値判断の変化の印となった。

モーリス・アルブァクスは、「集団的記憶とは……連続した思考の流れであるが、その連続性はまったく人為的につくりだされたものではない。記憶を保持する集団の意識のなかでいまだ生き続けている事柄や、生き続けている事柄に関してのみ、過去から選んで記憶するからである」<sup>22)</sup>と言う。中国の近代における公の記憶は、革命・戦争に関わる事柄を「選んで

記憶する」ことによって形成されたといえよう。その過程及び特質の解明は、中国の近代「国民」の形成史の研究において、重要な課題だと考えられる。

## 注

- 1) 若尾祐司 2004年 『近代化プロセスにおける家族と郷土の比較文化史』(平成12年度～平成15年度科学研究費補助金(基盤研究B・2)研究成果報告書) 43頁。
- 2) 広州市地方誌編纂委員会 1999年9月 『広州市志』、『広州市文物志』編委会 1990年 『広州市文物志』、広州市文物文物局 『文物保護文件彙編』(非公開)、嶺南文化研究会 『嶺南建築誌』。
- 3) 前掲書。
- 4) 邱金華等主編 2001年12月 『黄花崗公園』嶺南美術出版社。
- 5) 邱金華、前掲書。
- 6) 広州市地方誌編纂委員会 1999年9月 『広州市志 卷16』広州出版社。
- 7) 『広州市文物志』編委会編著 1990年 『広州市文物志』嶺南美術出版社 254頁。
- 8) 中国国民党広州特別市執行委員会 『革命記念叢刊第2種・革命烈士記念専刊』。
- 9) 李華英編 1999年5月 百個愛国主義教育示範基地叢書『紅灯永照千秋亮——広州起義烈士陵園』中国大百科全書出版社 112頁。
- 10) ケネス・E・フット 2002年8月 『記念碑の語るアメリカ暴力と追悼の風景』和田光弘他訳 名古屋大学出版会 26頁。
- 11) アヘン戦争中で敵軍の死傷者数が第4位の戦果であった。茅海建 1995年4月 『天朝的崩潰』生活・読書・新知三聯書店 300頁。
- 12) 李穗梅編著 百個愛国主義教育示範基地叢書『三星旗下誓抗英——三元里人民抗英闘争記念館』中国大百科全書出版社 23頁。
- 13) 蕭楚女編述 1987年11月 「中国民族革命運動史講授大綱(節録)」『中国現代革命史資料叢刊 広州農民運動講習所資料選編』人民出版社 142～143頁。
- 14) 李穗梅編著 百個愛国主義教育示範基地叢書『三星旗下誓抗英——三元里人民抗英闘争記念館』中国大百科全書出版社 2頁。
- 15) 李穗梅編著 百個愛国主義教育示範基地叢書『三星旗下誓抗英——三元里人民抗英闘争記念館』中国大百科全書出版社 21頁。
- 16) 茅海建 1995年4月 『天朝的崩潰』生活・読書・新知三聯書店 308～309頁。

中国の革命・戦争記念碑に関する基礎的調査

- 17) 李穗梅編著 百個愛国主義教育示範基地叢書『三星旗下誓抗英——三元里人民抗英闘争記念館』中国大百科全書出版社 34頁。
- 18) 邱金華等主編 2001年12月『黄花崗公園』嶺南美術出版社。
- 19) 黄花崗公園の変遷については、拙著「20世紀の中国記念碑文化」(『記録と記憶の比較文化史』第四章、名古屋大学出版会 2005年1月)を参照されたい。
- 20) 「公墓何処覓英魂 新1軍印緬抗日陣亡将士公墓遭嚴重破坏」『南方日報』2000年8月18日。
- 21) 栗津賢太 2000年10月「ナショナリズムとモニュメンタリズム——英国の戦没記念碑における伝統と記憶」、大谷栄一・川又俊則・菊池裕生編著『構築される信念——主教社会学のアクチュアリティを求めて——』ハーベスト社 126頁。
- 22) ジョン・ボドナー 1997年『鎮魂と祝祭のアメリカ 歴史の記憶と愛国主義』野村達郎、藤本博、木村英憲、和田光弘、久田由佳子訳 青木書店 26頁。